

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	カリフォルニア地域産業と英語研修プログラム		
学部・研究科名	国際交流センター（現グローバル教育推進センター）		
実施期間	2014年9月1日～9月22日		
研修先(国・都市・施設名)	アメリカ・カリフォルニア州・チコ市		
参加学生数	16名	知の森基金からの支援者	6名
プログラム概要	交流協定校である、カリフォルニア州立大学チコ校と協同で企画・実施した3週間のプログラム。英語学習及び「カリフォルニア地域産業」がテーマで、英語授業のほか、専門家によるレクチャーと、大学の農場や、農産物の生産から加工販売まで手がける農業関連企業での実地研修などを組み合わせた内容。また、研修先大学で行われている日本語クラスへ参加し、日本語や日本文化の紹介を行うことで、現地学生との交流を深めた。		

実施状況・成果

渡航前は概ねどの学生も不安を隠しきれない硬い表情をし、同じ信大生、同じプログラム参加者同士であるにもかかわらず、人見知りや積極的な交流もままならない場面が散見され、典型的日本人気質をにじませていた。しかし、現地で研修中に再会した彼らの表情には、日本では見ることでできなかった笑顔やアメリカを思いっきりエンジョイする若者らしいハツラツさがあり、一人ひとりが本当に充実した時間をすごしていることが一目でわかるほどのエネルギーを爆発させていた。

一言で本研修を総括すれば、参加学生のおよそ70%が「今後の留学を真剣に考えたい」と答えるなど、本研修のもたらした成果が一人ひとりの学生にとって如何にかけがえのないものであったかを窺い知ることができた点で非常に意義あるものであったといえる。特に、帰国後の報告会における各学生が行った英語でのプレゼンテーションは自信に満ち溢れ、見るものを飽きさせない素晴らしいものであった。さらに、帰国後も参加学生全員の強いきずなは未だ失われていない点でも、カリフォルニア研修を通じて得た「何か」を今後の人生にも活かしてもらいたい。

学生の声①ー教育学部 学生

将来、英語は教育現場でかせげなくなるだろうと思い、今回この研修に参加しました。実際に現地の人たちと一緒に授業を受け様々な考え方を吸収することができました。ホームステイだったので、自ら伝えたいことを言わなければならない状況にあり、そのことにより、英語力が上がった気がします。日本のような「暗黙の了解」は通用しません。うまく言葉にできないときには、ジェスチャーも利用しました。また授業を通して、自ら発言することの大切さを学びました。

学生の声②ー繊維学部 学生

今回の研修を通じて、アメリカの文化や生活、本物の英語の速さなどを体感することができました。また、ALCIの英語の授業に参加することで、アメリカでの英語の授業と日本での授業の違いについて学ぶことができました。アメリカでは自分の意見を言わないと周囲に認めてもらえないという違いがありました。今後は、自分の意見をしっかりと持ち、相手に伝えられるような準備をすること、また、そのことを意識しながら過ごしていきたいと思います。

英語クラスのクラスメイトと



米農場を見学

